

日本新聞
知事官所
三月三日
水曜日
第一六二號

チエールレーキ事件

更に七名の歸米日系
中央刑務所護送される

中央クラフスフオールズ發A.P.通信は次の如く報道を加州チエールレーキ日本人センターより新十三名の日本人がクラフスフオール刑務所に收監された之に據る。白人セクターに先月來紛擾が生じてるを全貌が明白となつたが同セクター情報係は「ジョン・クック」は此の

「これ等十三名の日本人は歸米せよであるが同セクターに於ける就職者登録並に徴兵令執行手續に就いての意見相違の結果米國に中心誠なる三名の日本人を歐打せし廉にて定獄者として檢束され護送せられたものである。

缺勤者は體刑執行

但し獨逸のことである。獨逸に於ては軍事工場に於て欠勤せざるは投獄せしむることとなつてゐることを華府

方面を調査中である獨逸新聞記事に據る實例は十九の男女就働者各六ヶ月の重禁錮となつたと

伊太利終に媾和か?

伊太利に於ては獨逸外相リベントロフが首相と密議を凝らしてゐるが伊太利の單獨媾和説又も擧頭した。

ワタカナル拋棄聲明

東京同盟汎米放送

華府シP經由東京同盟通信は汎米諸國に生じて西明牙語にて放送したことを次の如く報じた。日本軍は作戦上ワタカナル島を撤退した米國軍は同島を占據したと云ふたが何の戦果を得ず。

獨逸對露左翼陣異常

チエールレーキ

レニングラドに集結したチエールレーキ軍は同地方に蟠居する獨逸軍を寸断するといふ作戦を以てカレリヤン半島の北部三百ニクワンを奪還したこの行動は獨逸軍を二つに切断したのを白路地域に屯す獨逸軍の兵力半減し、獨逸軍對露戦線に左翼異常ありと又カレリヤン半島に獨逸捕虜三千人死者八千人捕獲航空機七十八台戦車九十七台機関銃七百十

一挺野戦砲三百八十七門といふ

駐英大使歸米報告

大統領軽快始め引九

大統領ロバートハリス病氣快方に向昨日始めくえを引見した其又はワシントンにて提督他は駐英大使ジョン・ウィットが最近歸米中訪問せしものあることケンタッキー軍醫は豫後經過頗る宜しと發表した。

米國現役千五萬人制

徴兵官ハートリーの發表に據れば米國現役兵合計千五萬徵集となるが其と共に百萬人は交代歸休するが事實は千五百萬が服役することとなるといふ

宋美齡紐約入り風景

紐育に於て宋美齡は市長ラッセルと共にシネボルパークを散歩したラッセル市長は米國人は最後の英雄と稱すを稱賛したと陳へ宋美齡は紐育市に入つて紐育の市民的優待を受けしことを欣幸とするといふ宋美齡がペンシルニア停車場に降車せし時は紐育女子チアウチンと中へ妙齡の少女が贈花兵に挨拶し支那町に入つて巡り後右の歓迎場に出席したのを疲勞の爲め眩暈を起したか間もなく快氣を覺い最後其日程を果した

第十中隊新幹部

- | | |
|-------|--------------|
| 市長 | 中林 小四郎 |
| 副市長 | 久保 秀磨 |
| 書記長 | 二井 昇之助 |
| 書記 | 瀧口 啓次郎 |
| 會計 | 中島 靜男 |
| 作業部 | 折茂 吉太郎 |
| 厚生部 | 井上 通政 |
| 郵便部 | 藤永 寛眠 |
| 衛生部 | 清水 岩次郎 |
| 大工部 | 森山 作次郎 |
| 農業部 | 尾形 正 |
| 牧事部 | 加來 政太郎 |
| 運動部 | 岡本 勝 |
| 第 一 部 | 井上 通政(川島富之助) |
| 第 二 部 | 宮原 廣次(岡本 勝) |
| 第 三 部 | 三木 虎雄(藤永 寛眠) |
| 第 四 部 | 楠山 信一(平野啓三郎) |
| 第 五 部 | 壽村 逸發(末 定) |
| 第 六 部 | 福田 美亮(岩本清太郎) |
| 第 七 部 | 二宮 環(研岡 隆英) |
| 第 八 部 | 安保 寅一(藤本 軍一) |
- 海軍司令部開催豫報 来る十日より三日間に亘り第十中隊隊員に於て演藝會を催す事となり出演者同大車輪を以て稽古中なり。
- ××××出現 今朝十中隊便所に二時大の××××出現した各自注意ありたし。

